

5 小児がん

【現状と課題】

がんは小児の病死原因の第1位です。小児がんは、成人のがんと異なり生活習慣と無関係であり、乳幼児から思春期、若年成人まで幅広い年齢に発症、希少で多種多様ながん種からなります。

一方、全国でも小児がんの年間患者の数は2,000人から2,500人と少ないが、小児がんを扱う施設は約200程度と推定され、医療機関によっては少ない経験の中で医療が行われている可能性があります。

【20歳未満における悪性新生物罹患患者数の推移】

全国 (人)						県内 (人)						
全国	罹患患者数 (地域がん登録全国推計値より)					総計	県内	罹患患者数 (宮城県がん登録より)				
	年齢分布							年齢分布				
	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	0-19歳			0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	0-19歳
平成15年	798	509	392	748	2,447	平成15年	15	8	10	15	48	
平成16年	657	318	395	645	2,015	平成16年	13	7	9	15	44	
平成17年	659	429	473	623	2,184	平成17年	7	5	7	13	32	
平成18年	525	345	409	582	1,861	平成18年	2	3	1	12	18	
平成19年	745	430	539	768	2,482	平成19年	14	10	14	13	51	
平均	676.8	406.2	441.6	673.2	2197.8	平均	10.2	6.6	8.2	13.6	38.6	

※ 国の死亡率と県の死亡率が同じであった場合の期待される罹患患者数

期待数	年齢分布				総計
	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	
県内人口 (①)	95,732	103,182	109,287	120,010	
H15-19平均 全国罹患率 (②)	0.000121	0.000068	0.000073	0.000100	
県内 期待罹患患者数 (①×②)	11.6	7.0	8.0	12.0	38.6

(出典 県内人口: H22年国勢調査
H15-19平均全国罹患率: 国立がん研究センターがん対策情報センター)

本県においては、小児がんの治療は、東北大学病院と宮城県立こども病院に集約化されています。

医療施設における小児がん診療環境の充実とともに晩期合併症の実態把握と軽減の取組が重要です。また、長期にわたって日常生活や就学・就労に支障を来すこともあるため、患者の教育や自立と、患者を支える家族に向けた長期フォローアップ体制の構築が必要です。

さらに、現状を示すデータが限られていること、治療や医療機関、在宅ケアに関する情報が少ないこと、心理社会的な問題への対応を含めた相談支援体制が不十分であること、セカンドオピニオンの体制も不十分であることなどの課題があります。

【取組の方向性】

東北ブロックにおける小児がん拠点病院に指定された東北大学病院とその連携病院や地域の医療機関等とともに、小児がんの患者やその家族を支える取組を支援します。

【個別目標】

現況	目標	期限
平成 24 年	・東北ブロックにおける小児がん拠点病院である東北大学病院とその連携病院や地域の医療機関等とともに、小児がんの患者やその家族を支える取組を支援する。	平成 29 年度
〇	〔参考指標〕 ①小児がん拠点病院の連携病院数の増加	